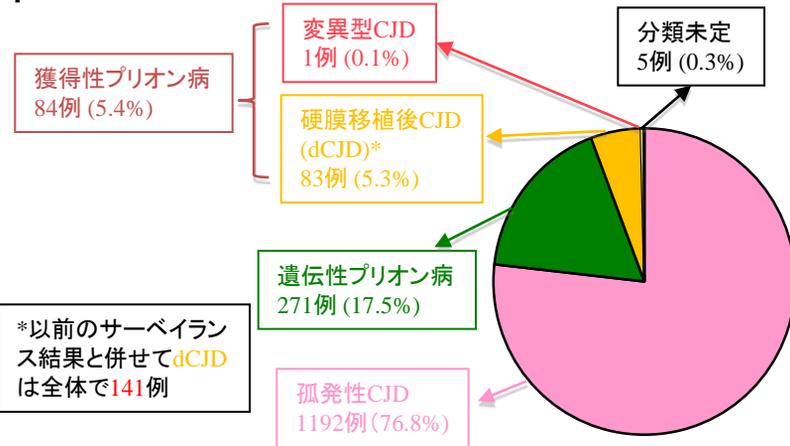


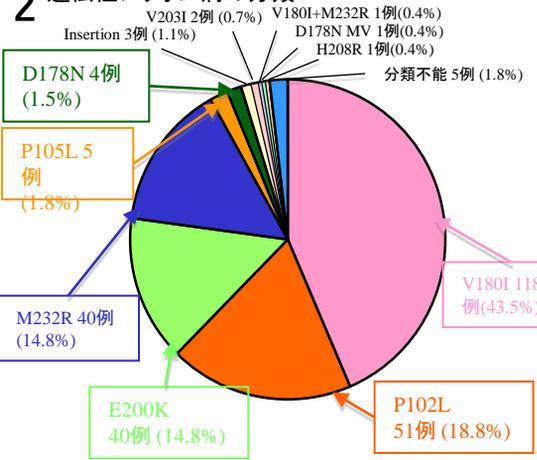
わが国のプリオン病のサーベイランス結果（～2010年8月）

研究分担者：金沢大学大学院医学系研究科 脳老化・神経病態学（神経内科） 山田正仁

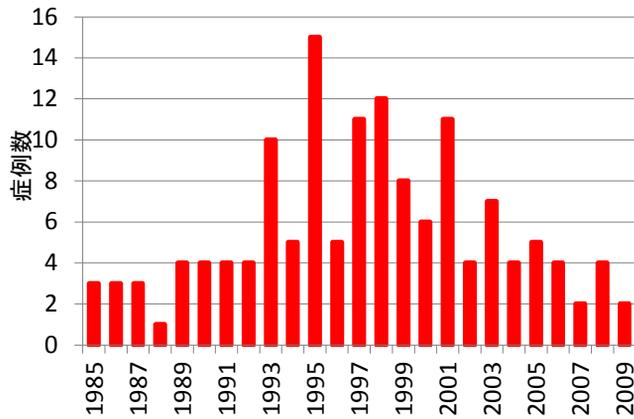
1 わが国における1324例のプリオン病症例の分類



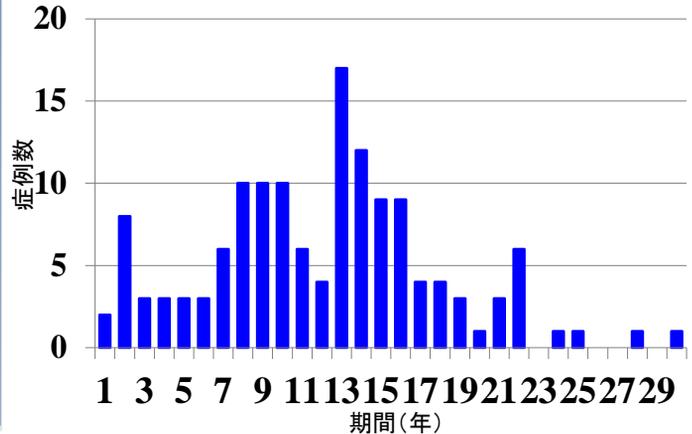
2 遺伝性プリオン病の分類



3 硬膜移植後CJDの発症年の分布



4 硬膜移植後CJD: 硬膜移植後から発症までの年数の分布



解説

- CJDサーベイランス委員会は1999年4月から2010年8月までに1,552例のプリオン病を同定した。病型別にみると、孤発性CJDが1,192例(76.8%)、遺伝性プリオン病が271例(17.5%)、硬膜移植後CJDが83例(5.3%)、変異型CJD 1例(0.1%)であった。硬膜移植例は過去の調査によるものを合計すると141例となった。
- 遺伝性プリオン病の変異別頻度はV180I, P102L, E200K, M232R他の順であった。
- 硬膜移植後CJDの発生は減少傾向にある。硬膜移植後から発症までの年数の最長は30年であった。